

公開実用平成 3-101056

4

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平3-101056

⑬ Int. Cl.³

H 04 B 1/38
H 04 M 1/04
1/11

識別記号

庁内整理番号

Z 7189-5K
C 7190-5K
7190-5K

⑭ 公開 平成3年(1991)10月22日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 頁)

⑮ 考案の名称 携帯無線機の保持構造

⑯ 実 願 平2-8744

⑰ 出 願 平2(1990)1月31日

⑱ 考 案 者 穂 積 稔 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号
⑳ 代 理 人 弁理士 鈴木 章夫

明 細 書

1. 考案の名称

携帯無線機の保持構造

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 携帯無線機と、これを保持する保持具とで構成され、前記携帯無線機には両側面に細溝を、背面には凹部をそれぞれ形成し、前記保持具は自動車の車室内等に固定される固定部と、この固定部に対して傾動可能に結合された保持部とを有し、この保持部には前記携帯無線機の細溝に係合される突条を設け、前記固定部には前記凹部に嵌入される嵌合体をスプリングにより付勢した状態で設けたことを特徴とする携帯無線機の保持構造。

2. 保持部は携帯無線機の下部を受け入れる箱状に形成してその下部を固定部にヒンジ結合し、固定部側に傾動したときに前記凹部に嵌合体が嵌合されるように構成してなる実用新案登録請求の範囲第1項記載の携帯無線機の保持構造。

3. 保持部の両側には切欠溝により舌片を形成してその先端にフックを設け、前記固定部にはこの

700

1

実開 3-10105 6

フックに係合される係合窓を形成し、保持部を固定部側に傾動したときにフックが係合窓に係合される実用新案登録請求の範囲第2項記載の携帯無線機の保持構造。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は携帯無線機を自動車等の車室内に保持させるための保持構造に関する。

〔従来の技術〕

従来、この種の保持構造として、第3図に示すものが用いられている。図において、1は携帯無線機、4は保持具である。携帯無線機1にはその両側面に凹部13を形成する。また、この保持具4は携帯無線機1の下部を受け入れるコ字状に形成され、その内面両側には前記凹部13に嵌合される突部41を一体に形成している。

この保持具4を用いれば、携帯無線機1の下部を保持具4内に挿入すれば、保持具4の両側部が弾性変形して突部41が凹部13に嵌合される。そして、この弾性力に基づく突部41と凹部13

との嵌合力によって携帯無線機 1 を保持することができる。

〔考案が解決しようとする課題〕

上述した従来の保持構造は、保持具 4 に対する携帯無線機 1 の着脱を考慮すると、保持具 4 の弾性力を大きくすることには限度があり、保持力を高めることは困難となる。このため、自動車の急停止時や衝突時等の慣性力が衝撃によって携帯無線機 1 が保持具 4 から離脱されることがあり、携帯無線機が破損され、或いは安全性の点で問題となる。

本考案の目的は携帯無線機の着脱を容易に行うことができる一方で、その意に反する離脱を防止することができる携帯無線機の保持構造を提供することにある。

〔課題を解決するための手段〕

本考案の携帯無線機の保持構造は、携帯無線機と、これを保持する保持具とで構成され、携帯無線機には両側面に細溝を、背面には凹部をそれぞれ形成し、保持具は自動車等に固定される固定部

と、この固定部に傾動可能に結合された保持部とを有し、この保持部には携帯無線機の細溝に係合される突条を設け、固定部には凹部に嵌入される嵌合体をスプリングにより付勢した状態で設けている。

ここで、保持部は携帯無線機の下部を受け入れる箱状に形成してその下部を固定部にヒンジ結合し、固定部側に傾動したときに凹部に嵌合体が嵌合されるように構成する。

また、保持部の両側には切欠溝により舌片を形成してその先端にフックを設け、固定部にはこのフックに係合される係合窓を形成し、保持部を固定部側に傾動したときにフックが係合窓に係合されるように構成する。

〔作用〕

本考案によれば、携帯無線機を細溝と突条を利用して保持部に挿入した上で、保持部を固定部側に傾動させることで、凹部に嵌合体が嵌合してその離脱が防止される。

〔実施例〕

次に、本考案を図面を参照して説明する。

第1図は本考案の一実施例の斜視図、第2図はその一部破断側面図である。これらの図において、1は携帯無線機、2はこの携帯無線機1を保持する保持具である。

前記携帯無線機1はその両側面の下部に、下方に向けて開いた細溝11を形成している。また、その背面には凹部12を形成している。

また、前記保持具2は、携帯無線機1を直接保持する保持部21と、この保持部21を車室内に固定する固定部22とで構成される。前記保持部21は、前記携帯無線機1の下部を受け入れるように、前面が開いた箱状に形成され、その下部において前記固定部22にヒンジ23により連結される。また、この保持部21の両側内面には、前記携帯無線機1の細溝11に嵌合される突条24を形成している。更に、保持部21の両側には横方向に伸びる舌片25を切欠溝26によって形成し、この舌片25の後側端部にはフック27を一体に形成している。

一方、前記固定部 2 2 は、両側面に前記フック 2 7 に係合される係合窓 2 8 を形成している。また、この固定部 2 2 の正面位置には、スプリング 2 9 により嵌合体 3 0 を支持し、この嵌合体 3 0 をスプリング 2 9 力によって前方に突出させるように付勢している。この嵌合体 3 0 は前記保持部 2 1 に設けた窓 3 1 を通して保持部 2 1 内に露呈され、この窓 3 1 を通して前記携帯無線機 1 の四部 1 2 に嵌合することができる。更に、固定部 2 2 の下部寄りの正面にはリーフスプリング 3 2 を配設し、前記保持部 2 1 を前方に付勢している。

この構成によれば、予め固定部 2 2 は図外のねじ等を利用して車両の室内に固定しておく。このとき、通常では保持部 2 1 はリーフスプリング 3 2 によって前方に付勢され、ヒンジ 2 3 を軸にして所要の角度で前方に傾けられている。

この状態で保持部 2 1 内に携帯無線機 1 を挿入する。携帯無線機 1 は細溝 1 1 が保持部 2 1 の突条 2 4 に案内されて保持部 2 1 の所定位置に挿入される。その上で、携帯無線機 1 及び保持部 2 1

を後方に押してヒンジ 2, 3 を軸にして後方に傾動すると、舌片 2 5 が弾性変形され、この舌片 2 5 に設けたフック 2 7 が係合窓 2 8 に係合し、保持部 2 1 と固定部 2 2 が固定される。同時に、携帯無線機 1 の背面では、凹部 1 2 に嵌合体 3 0 が嵌入する。これにより、携帯無線機 1 は上方への移動が拘束され、保持部 2 1 からの脱落が防止される。

一方、保持状態を解除する際には、舌片 2 5 を両側から内方に押すことにより、フック 2 7 と係合窓 2 8 との係合を外し、保持部 2 1 を前方に倒す。これと同時に嵌合体 3 0 と凹部 1 2 との嵌合も外される。したがって、携帯無線機 1 を保持部 2 1 から上方に引き出すことができる。

なお、凹部 1 2 と嵌合体 3 0 との形状を適宜に設定することにより、保持部 2 1 が固定部 2 2 に保持されている状態でも、携帯無線機 1 を保持部 2 1 に挿入できるように構成することも可能である。勿論、携帯無線機 1 を挿入した後は、凹部 1 2 と嵌合体 3 0 との嵌合が容易に外れないような形

状としておくことは必要である。

したがって、この保持構造によれば、携帯無線機の保持及びその解除を簡単な操作で行うことができる一方で、携帯無線機 1 の保持強度を高め、携帯無線機が意に反して離脱されることを防止することができる。

〔考案の効果〕

以上説明したように本考案によれば、携帯無線機の細溝を保持部の突条に係合させ、かつこの保持部を固定部側に傾動させて携帯無線機の凹部を固定部の嵌合体に嵌合させるので、容易な操作により携帯無線機の保持固定ができ、また解除も容易であり、車両の急停止等においても携帯無線機が保持具から離脱されることが防止できるという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の携帯無線機の保持構造の一実施例の斜視図、第 2 図はその一部を破断した側面図、第 3 図は従来の保持構造の斜視図である。

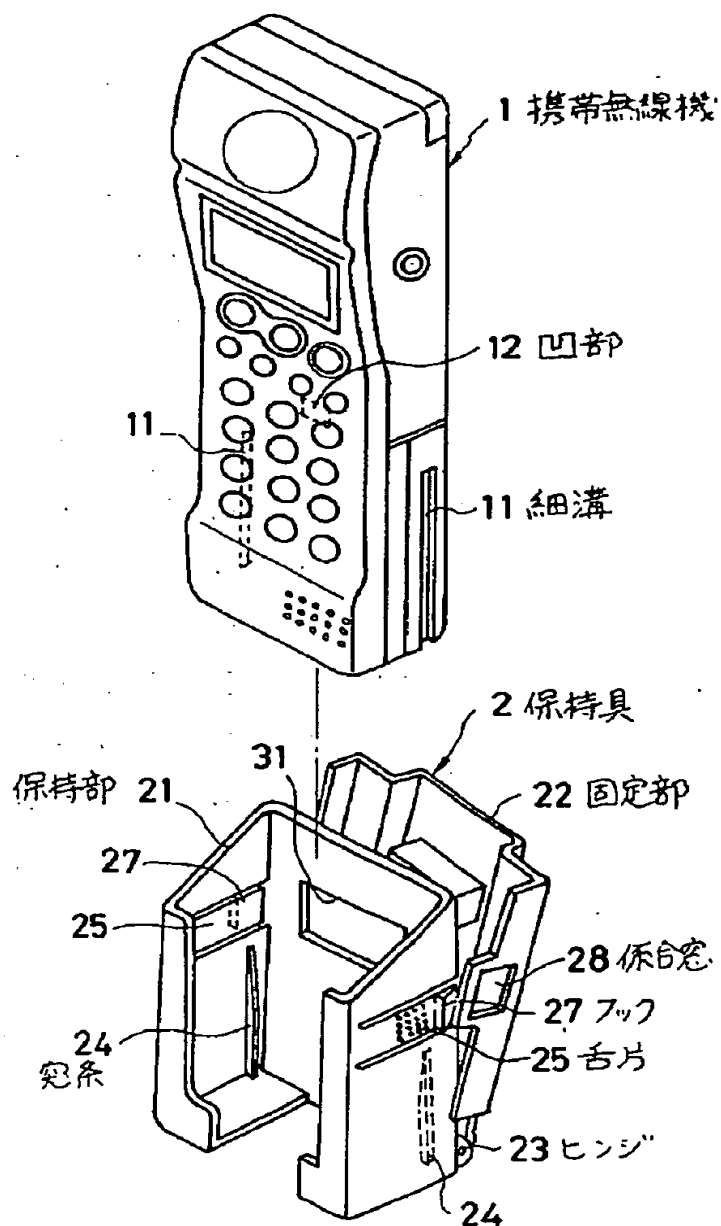
1 … 携帯無線機、2 … 保持具、1 1 … 細溝、

1 2 …凹部、2 1 …保持部、2 2 …固定部、
2 3 …ヒンジ、2 4 …突条、2 5 …舌片、2 6 …
切欠溝、2 7 …フック、2 8 …係合溝、2 9 …ス
プリング、3 0 …嵌合体、3 1 …窓、3 2 …リー
フスプリング。

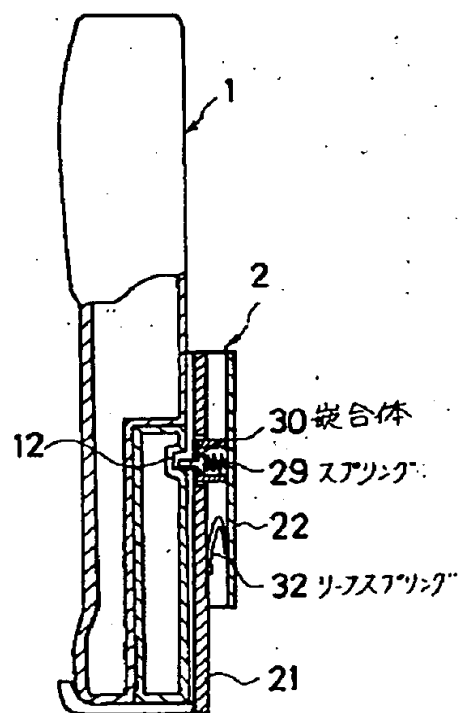
代理人 弁理士 鈴木 章 夫



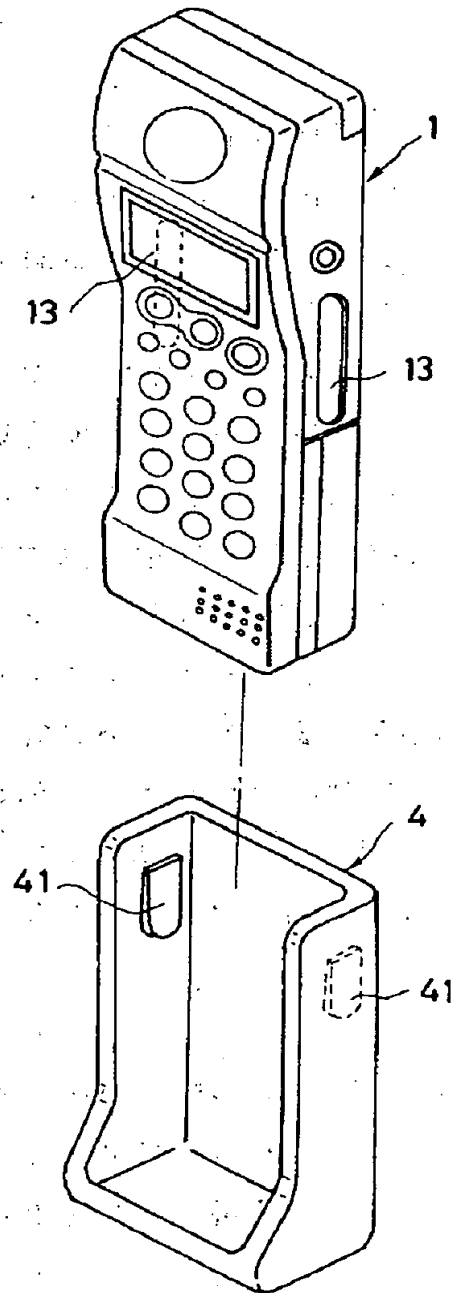
第 1 図



第 2 図



第 3 図



710

01056

代理人 弁理士 鈴木章夫

Japanese Utility Model Laid-Open No. 101056/1991

Laid-Open Date: October 22, 1991

Application Date: January 31, 1990

Applicant: NEC Corp.

Title:

HOLDING CONSTRUCTION OF PORTABLE WIRELESS MACHINE

Abridgment of the Specification:

In FIGS. 1 and 2, reference numeral 1 denotes a portable wireless machine, and 2 a holder for holding the portable wireless machine 1.

The portable wireless machine 1 is formed with, at lower parts on both sides thereof, narrow grooves 11 opened downward. Further, a recess 12 is formed on the back thereof.

The holder 2 comprises a holding portion 21 for directly holding the portable wireless machine 1, and a fixing portion 22 for fixing the holding portion 21 within a vehicle chamber. The holding portion 21 is formed in the form of a box whose front surface is opened so as to receive a lower portion of the portable wireless machine 1, which is connected, at the lower portion, to the fixing portion 22 by means of a hinge 23. Further, on the inner surfaces

of both sides of the holding portion 21 are formed projections 24 fitted in the narrow grooves 11 of the portable wireless machine 1. Further, on both sides of the holding portion 21 are formed laterally extending tongues 25 by cut grooves 26, and hooks 21 are formed integrally with the end on the back of the tongues 25.

On the other hand, the fixing portion 22 is formed, on both sides thereof, with engaging windows 28 engaged with the hooks 27. Further, in front of the fixing portion 22 is supported a fitting body 30 by means of a spring 28, and the fitting body 30 is biased so as to be projected forward by the force of the spring 29. The fitting body 30 is exposed within the holding portion 21 through a window 31 provided on the holding portion 21, and can be fitted in the recess 12 of the portable wireless machine 1 through the window 31. Further, a leaf spring 32 is disposed in front close to the lower portion of the fixing portion 22 to bias the holding portion 21 forward.